



蓮恵



妙忍尼

有形文化財（絵画）

13. 絹本着色蓮恵・妙忍尼画像 2幅一對

- 指定年月日 昭和63年3月18日(1988)
- 寸法 縦83.7cm 横35.4cm
- 所在地 若山町大坊18-甲81
- 所有者 正福寺

緑色の上畳に坐し、墨染衣に墨袈裟をまとい、数珠をつまぐる姿の蓮恵。鈍色の頭巾に、小紋の白い衣姿の妙忍尼、2幅一對の肖像画である。

蓮恵（兼英）は、本願寺緯如の3男玄真（周覚）が開基の、荒川興行寺（福井県吉田郡永平寺町）5世であり、妙忍尼はその妻である。

蓮恵は幼少の頃、永正一揆で朝倉氏に越前を追われ、父蓮堯らと加賀山内荘若原にあったが、享祿の大小一揆で、珠洲郡若山荘経念の真宗道場を頼って、妻子と共に逃れて来たという。蓮恵は永祿5年（1562）越前へ帰って興行寺を再興したが、珠洲を去るとき、大小一揆で破却された加賀波佐谷松岡寺兼玄の2男兼堯を娘の婿として道場を継が

せた。その道場は寺合御坊と呼ばれていたが、まもなく正福寺号を公称するようになった。慶長7年（1602）本願寺東西分立のとき、東派となり、蓮恵、妙忍尼を正福寺の開基像として、門主教如の署名を得た。

粗い絹地に画かれた肖像は、妙忍尼の衣など胡粉を厚く盛った部分の剥落はあるが、写実的でその面貌を知ることのできる近世初頭の画風を示す似絵としての価値がある。裏書には「本願寺釈教如（花押）」の墨書がある。